

関西大学『国文学』投稿規定

- 一、投稿者は、原則として関西大学国文学会会員に限る。
- 二、委員会の承認があった場合に限り、特例として、上記以外の者の投稿を認める。
- 三、投稿論文は、原則として四〇〇字詰め原稿用紙四〇枚以内とする。
- 四、投稿論文の採否は、委員会決定する。
- 五、投稿原稿の返却を希望する場合は、切手を貼った返信用封筒を添付すること。
- 六、掲載された原稿の著作権は執筆者が有する。ただし、原稿の二次利用としての電子化利用の権利は、掲載時点で執筆者が関西大学国文学会に許諾したものとす。

◇編集後記

『関西大学国文学』第一〇三号をお届けいたします。本号は、この三月をもってご退職なさる、山本登朗教授の古稀をお祝いして刊行するものです。『伊勢物語』研究の碩学として知られる先生は、二〇〇二年に本学にご着任なさって以来、専修の支柱として私たちを導いてくださいました。

国語国文学専修では、三年次の秋学期に、教員・学生が一堂に会する宿泊セミナーを実施していますが、高槻キャンパス内のセミナーハウス高岳館を会場として実施したここ数年は、先生に『伊勢物語』第六段「芥川」をご講義いただくことが、定例となっておりました。高槻市を流れる芥川にまつわる物語として、その顛末と背景をひもとく先生の語り口調は、軽妙で且つ含蓄に富み、さらに加えてお話しになる宿泊地近郊の（藤原鎌足の墓とされる）阿武山古墳にまつわる「怪談話」までもが、妙な説得力に満ちていました。

本号は、先生から多くの学恩を受けてきた本学大学院生・大学院修了生を中心に、国文学二十三編、国語学八編の計三十一編を収録した、充実した内容になっております。

先生の益々のご健勝をお祈りしますとともに、本学会のさらなる発展を期して、本号を上梓いたします。（水）